

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

① 目指す姿と数値目標

ビジョン

永遠に、エネルギーに困らない地球を実現し、日本のエネルギー自給率の向上を実現する。

蓄電池導入ポテンシャル
291～337GWh蓄電池導入ポテンシャル
10.1兆円国内データセンター市場
5.3～10.4兆円日本エネルギー自給率
15.3%

② 中長期の経営戦略

1. BESS事業による電力調整

大型定置用蓄電システム「PowerX Mega Power」と中型定置用蓄電システム「PowerX cube」を製造販売。

3. 電力事業によるアグリゲーション

自社蓄電システムを活用し、マーチャントモデル、トーリングモデル、ハイブリッドモデルなど多様な電力運用サービスを提供。

2. EVCS事業による充電インフラ

蓄電池型急速EV充電システム「PowerX Hypercharger」で最大出力240kWの短時間充電を実現。商業施設や空港への設置展開。

4. 量産型データセンター事業参入

蓄電池と演算基盤を統合した「PowerX Mega Power DC」を開発。電力需給バランスに応じた柔軟なエネルギーマネジメントで脱炭素化を実現。

③ 対処すべき課題

① 再生可能エネルギー導入での課題

- ・ 太陽光・風力発電の出力変動による余剰電力発生と電力供給安定性確保
- ・ 蓄電池による調整力需要の増加への対応

② 日本のエネルギー自給率向上

- ・ 2023年の自給率15.3%からの脱却とOECD内での地位向上
- ・ 2040年までにカーボンニュートラル達成と温室効果ガス73%削減達成

③ データセンターの電力課題対応

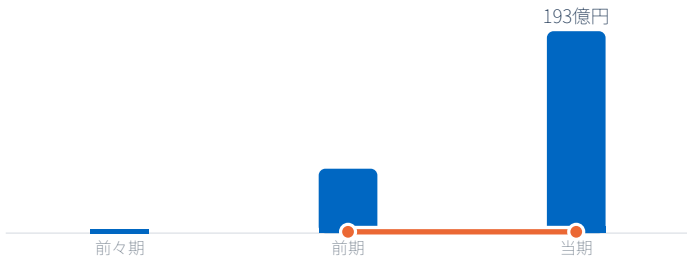
- ・ AI・機械学習普及に伴う電力消費増大への対応
- ・ 分散型データセンターやエッジコンピューティングの重要性が高まる中での事業展開

面接で使えるポイント

- ・ 日本のエネルギー自給率15.3%という現状から、蓄電池システムで2040年までに291～337GWhの導入ポテンシャルを…
- ・ PowerX Hyperchargerの最大出力240kWという急速充電技術と…
- ・ 2040年国内データセンター市場規模が5.3～10.4兆円に達する見込みの中で…

証券コード 485A

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

暗記する数字3つ

連結売上高
193億円営業利益率
▲3.5%財務健康度
10点 / 100点

将来性 晴れ時々曇り / 就活偏差値 59.5（当サイト算出の参考指標）

平均年収

1,185万円

電気機器内 5位/225社

平均年齢

39.7歳

電気機器内 207位/225社

平均勤続

1.8年

電気機器内 224位/225社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース十一言

参考: JAXA発スタートアップ・株式会社WHEREと株式会社パワー

